

福祉サービス第三者評価結果

事業所名 善隣園保育センター/分園こぼと園

発効：平成23年3月24日（平成26年3月23日まで有効）

社団法人神奈川県社会福祉士会

社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

事業所基本事項

フリガナ	シャカイフクシホウジンヨコスカキリストキョウシャカイカン ゼンリンエンホイクセンター
事業所名 (正式名称を記載)	社会福祉法人横須賀基督教社会館 善隣園保育センター
事業所住所 最寄駅	〒237-0075 神奈川県横須賀市田浦町2-80-1 JR 横須賀線 田浦駅下車 徒歩5分
事業所電話番号	046-861-9777
事業所FAX番号	046-861-9778
事業所代表者名	役職名 園長 氏名 内山和子
法人名及び 法人代表者名	法人名 社会福祉法人横須賀基督教社会館 法人代表者氏名 理事長 濱野一郎
URL	
e-mail	taura-zenrinen@yokosuka-ccc.jp
問合せ対応時間	9時～17時

事業所の概要 1

開設年月日	昭和24年6月24日
定員数	149名 (本園120名、分園29名)
都市計画法上の用途地域	近隣商業地域・準防火地域
建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り地下1階建て地上6階 保育園1階
面積	敷地面積(3,494.83)㎡ 延床面積(888.68)㎡

事業所の概要 2 (職員の概要)

総職員数	42名
うち、次の職種に該当する職員数	園長 (常勤 1名) 保育士 (常勤 22名：非常勤 10名) 保育助手 (常勤 1名：非常勤 5名) 事務員 (常勤 1名：非常勤 2名)

事業所の概要 3 (受入・利用可能サービスの概要)

受入年齢	生後8週～小学校就学未満	
延長保育の実施	有	備考：
休日保育の実施	無	備考：
一時保育の実施	有	備考：
障害児保育の実施	有	備考：
病後児保育の実施	無	備考：

保育の方針

- ・キリスト教の考え方で保育する。真の人間としての生き方を培う。伝道は考えない。
- ・外に出す保育、遊びを中心にした保育をする。
- ・子ども一人ひとりを高めながら集団全体(集団と個との関係)を高める保育を行う。

社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

1. 総合コメント

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善を要する点）

優れている点・独自に取り組んでいる点：

＜本園＞

- 横須賀基督教社会館の基本理念に、「安心して子どもを生き育てられる社会、違いを受け入れたすけあう社会、長寿を喜ぶ社会、みんなで参加して共につくる社会」を掲げ、子どもたちの個性を大切にし、一人ひとりがいきいき、のびのびと過ごすことができるよう、保育を実践している。
- 障害者、高齢者などの複合福祉施設の1階で、縦割り保育を行っている。園児は0歳児～2歳児前半までの乳児クラスと、2歳児後半～5歳児の幼児クラスの5クラスに分かれて活動している。クラス内はグループに分かれ、個々の発達の状況によって組み合わせを変更している。年齢の異なる子どもと常時触れ合うことで、下の子を思いやり、上の子を敬う気持ちを育てている。
- 縦割り保育では、4～5月はクラス活動を中心にを行い、5月～秋頃はグループ活動を、それ以降はコーナー保育や自由保育を中心に行っている。
- 保育士全員がすべての子どもに関わる保育を目指している。保育士が子どもと保護者全員の顔と名前を把握することを基本とし、保護者からの意見や要望を、すべての保育士が受け止めることができるようにしている。
- 散歩や園外活動を積極的に行っている。園庭は乳児と幼児に分かれており、乳児の園庭には、砂場や芝山の滑り台がある。幼児の園庭には、鉄棒やブランコ、自転車などがあり、思いっきり身体を動かすことができるようにしている。園周辺には緑が多く、その日の天気を見て、保育士の判断で散歩を頻繁に行い、地域の中に出ていくようにしている。幼児クラスでは年に1度、観音崎まで海水浴に出掛けたり、市営プールなどで水泳の取り組みを行っている。
- 年10回、保護者会の定例会があり、園との意見交換の機会を作っている。個人面談や保護者懇談会で家庭との連携を密にしている。保護者は「お父さん先生、お母さん先生」として保育参加の機会がある。また、毎月2回、迎えの時間に合わせて「お茶の日」を開き、保護者とのコミュニケーションを大切にする取り組みを行っている。
- 地域に開かれた保育を目指し、地域の子育て支援として、開放保育や出張保育、育児教室、赤ちゃん体験教室、育児相談などを行っている。職員の中から地域事業の担当を決め、園児との接点、関わり、感想などを職員会で報告し、情報を共有している。出張保育は園独自の事業で、公園に出掛け屋外で実施している。育児相談は電話や面談で行っている。相談受け付けについては、園のパンフレットやホームページなどで知らせている。

＜分園＞

- 分園は、本園から1駅離れた高層マンションの2階にあり、0歳児～2歳児のみの乳児保育を行なっている。縦割り保育を実践し、0歳児～2歳児が2クラスに分かれて過ごしている。30名弱のこじんまりとした環境を活かし、家庭的で温かみのある保育を展開している。保育士の連携もよく取れ、子どもや保護者、保育士にとって楽しい園になるよう努めている。
- 善隣園はよく歩く、よく歩こうを大事にして、午前午後を通して、雨が降らない限り毎日、散歩に出掛けている。少人数の保育のため、散歩先で何かを見つけた時などは、子どもが納得するまでじっくりと観察できるように配慮している。
- 地域に開かれた保育を目指し、地域のお年寄りとの交流会を実施したり、ボランティアセンターからのボランティアの受け入れを行っている。地域の公民館を使用して、地区社協と園との共催で親子広場を開催している。また、地域の子育てサロンとは日常的に交流している。

改善を要する点：

- 保護者及び来園者に向けて、個人情報保護方針を掲示することを期待する。

評価領域ごとの特記事項		
1	人権への配慮	<p>○園児や保護者に対しての適切な言葉遣いや態度については、「善隣園保育センター仕事マニュアル(手引書)」を定め、職員会議や新人研修で周知している。職員は「仕事マニュアル(手引書)」を所持し、必要時にいつでも確認できるようにしている。</p> <p>○個人情報の保護、守秘義務については、横須賀基督教社会館「個人情報保護に対する基本方針」及び「個人情報管理規程」に明文化し、個人情報の取り扱いに留意している。職員の採用時及び退職時に個人情報の保護について周知し、職員は「個人情報に関する誓約書」を提出している。</p> <p>○横須賀市こども家庭地域対策ネットワーク会議に参加し、子どもの虐待予防や早期発見に向けて、情報の共有や連携を図っている。</p> <p>○実習生の受け入れにあたっては、「オリエンテーションの流れ」で個人情報への配慮について説明している。ボランティアや見学者については、「ボランティアマニュアル」に沿って説明し、見学時には必ず職員が1名ついて見学している。</p>
2	利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援	<p>○家庭との連絡・情報交換は、「善隣園保育センター仕事マニュアル(手引書)」で手段・方法を定め、全園児に連絡帳を用意し、乳児は毎日、幼児は週に1度は意見交換ができるようにしている。クラスのホワイトボードや事務室横にある家庭への連絡コーナーへの掲示で、情報交換に努めている。</p> <p>○個人面談は、年長児が年1回、4歳児以下は希望時や必要に応じて行っている。保護者参観は年2回、懇談会は年4回(内クラス別が年1回)実施している。また、保護者定例会が年10回行われ、保護者の意見・要望を汲み取る機会としている。</p> <p>○お茶の日を月2回、園の主催で実施している。ロビーにお茶と絵本を準備して、保護者との交流を図っている。</p> <p>○保護者からの意見・要望を、どの保育士も受け止められるよう、保育士は、全園児と保護者の顔と名前が判ることを基本としている。保護者から意見・要望が寄せられた場合は、「園務日誌」に記録し、保育士間で話し合い、改善策を検討している。</p>
3	サービスマネジメントシステムの確立	<p>○苦情への対応は、法人全体で「苦情申出窓口」を設置し、苦情解決責任者名や苦情受付担当者名、第三者委員名を玄関の掲示コーナーなど見やすいところに掲示して、保護者に周知している。受け付けた苦情は「苦情受付書」にまとめ、職員会で報告し話し合いを行っている。</p> <p>○善隣園保育センター「温度、湿度などの室内環境管理」で、室内の環境管理の方法を決め、「危険物の取り扱いについて」で、洗剤や薬品、肥料やハサミなど危険物の保管場所を決めている。</p> <p>○園児が触れるおもちゃ、タオル、布団、砂場などの除菌・消毒、遊具の安全点検については、マニュアルに管理方法を定め、点検実行記録をつけて衛生面・安全面の管理を行っている。</p> <p>○感染症に関するマニュアルを整備し、横須賀市子ども育成部保育課の方針に沿って対応している。家庭から感染症罹患の情報を受けた場合は、保育士間で情報を共有できるよう、事務室の掲示板に内容を貼り出している。</p> <p>○防火・防災・防犯対策については、「善隣園保育センター防災マニュアル」に基づき、定期的に避難訓練や不審者対応訓練などを実施している。地域で災害があった場合に備えて、田浦地区防災訓練に参加している。</p>

4	地域との交流・連携	<p>○散歩や園外活動を積極的に行っている。園周辺には緑が多く、その日の天気を見て、保育士の判断で散歩を頻繁に行い、地域の中に出ていくようにしている。</p> <p>○地域の子育て支援として、開放保育や出張保育、育児教室、赤ちゃん体験教室、育児相談などを行っている。職員の中から地域事業の担当を決め、園児との接点、関わり、感想などを職員会で報告し、情報を共有している。</p> <p>○出張保育は園独自の事業で、公園に出掛け屋外で実施している。育児相談は電話や面談で行っている。相談受けについては、園のパンフレットやホームページなどで知らせている。</p>
5	運営上の透明性の確保と継続性	<p>○「新保育内容等の自己評価のためのチェックリスト」を用い、職員それぞれが自己評価に取り組んでいる。月間保育計画の中で、保育士が自己評価を行うことで、日頃の保育を振り返り、翌月の月間保育計画に生かしている。</p> <p>○玄関や事務室に、善隣園保育センターの保育理念や保育目標、保育方針、横須賀基督教社会館倫理綱領「倫」を掲示している。「善隣園保育センター仕事マニュアル(手引書)」にも保育理念などを明示し、年度始めの職員会で職員間で読み合わせを行っている。</p> <p>○保護者に保育園での子どもたちの様子を見てもらう機会として、保育参観を実施している。保護者は「一日お父さん・お母さん先生」として、保育に参加する機会がある。</p>
6	職員の資質向上促進	<p>○職員の習熟度などで研修の振り分けを行い、「年間研修一覧表(本園・分園)」を作成している。年齢別研修、キャリア別研修、専門講座研修、法人内研修などがある。</p> <p>○外部研修に参加した際には、職員会で研修内容の発表を行い、報告書を回覧し、「研修報告書」としてまとめ、いつでも内容を閲覧できるようにしている。</p>

2. 評価項目に基づく評価の結果

大項目 1 保育環境の整備

評価機関が定めた評価項目に添って、調査を行った結果です

大項目 1 全体 （調査確認事項全 80 事項） を通してのサービスの達成状況	99%
---	------------

大項目 1 の内容(概要)

1	人権の尊重	子どもや保護者に対する態度や言葉遣い 出生や国籍、性差などによる差別の禁止 子どもの虐待予防や早期発見のための地域の関係機関・団体との連携
2	プライバシー確保	プライバシー確保への配慮 個人情報保護の体制整備
3	家庭と保育園との 信頼関係の確立	家庭との連絡、情報交換の体制 家庭の意向・希望の把握
4	苦情解決システム	苦情解決の体制整備
5	環境整備	温度や湿度等の管理 洗剤等の危険物の管理 おもちゃ、遊具等の管理
6	健康管理(感染症対策・ 救急救命を含む)	体調不良児、けがへの対応 感染症への対応 救急事態発生時の医療機関・家族等との連携
7	危機管理(防災・防犯)	火災や震災等の対応 日常の防災・防犯体制の整備
8	地域の子育て支援	地域内の子育てニーズの把握と支援
9	自己評価と情報開示	自己点検・改善活動の実施 地域への情報提供、情報開示 見学や保育参観の機会の設定
10	職員研修	職員研修の実施 実習生の受入れ、指導

大項目2 保育内容の充実

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもと保育士とのかかわりにおいて、子どもの情緒の安定をはかることや、順調な発育・発達を促すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p><本園></p> <p>①ゆるやかな担当制をとり、子どもとの信頼関係を築くよう関わる。</p> <p>②日誌、経過記録、児童票、各打合で子どもの共通理解をしていく。</p> <p>③玩具やあそびに加え、清潔で家庭にいる時と同じような環境を大切にします。</p> <p><分園></p> <p>①担当制により、愛着信頼関係の形成をはかる。</p> <p>②1:1でのスキンシップを大切にし、子どもの気持ちをうけとめる。</p> <p>③記録、会議等で評価反省をし、子どもの発達をみていく。</p>	<p><本園></p> <p>①保育士の担当制については、各クラス内がグループに分かれ、個々の発育の状況によってグループを変更し、保育士も柔軟に対応できるようグループ担当制としていることを、「園児名簿」や「職員担当表」で確認した。</p> <p>②保育士の共通理解については、職員が全園児や保護者の名前と顔を覚えることを基本とし、各記録や職員会で理解を深めていることを、「打合せノート」や「児童票」などで確認した。</p> <p>③家庭と同じような環境作りについては、保育士が大きな声を出さずに対応していること、絵本やCDもよく選んで揃えるようにしていることを、訪問調査当日の様子観察で確認した。</p> <p><分園></p> <p>①愛着信頼関係の形成については、0~2歳児の縦割り保育の中で、担当を決め関わっていることを、「園児名簿」で確認した。</p> <p>②1対1でのスキンシップの取り組みについては、低月齢児は赤ちゃんマッサージをして寝かせたり、2歳児はふれあい遊びや膝に抱っこしたりしていること、言葉のやりとりやアイコンタクトを大切にしていることを、「指導計画(月案)」や「保育日誌」などで確認した。</p> <p>③会議などの開催については、職員会議を月2回、クラス会議や月案会議を月1回開催し、共通認識をもって関わっていることを、「職員会議録」や「クラス会議録」で確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子ども同士のかかわりにおいて、個の違いを認めあうことや他者と自分を大切にすることを大切にする心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p><本園> ①子どもの思いを受けとめる。又、思いの違いを代弁したり、相手の気持ちを感じられるように関わる。 ②複合施設での生活(高齢者、障害児者)。 ③集団のなかで個々の子どもを誉める、認める行為を保育士が伝える。</p> <p><分園> ①それぞれの気持ちを受けとめ、代弁する。 ②一人ひとりを大切に、自分をしっかり出せる関係を築く。 ③葛藤体験をくぐらせながら、個々の思いを受けとめる。</p>	<p><本園> ①子どもの思いを受けとめる取り組みについては、保育士が子どもの思いを代弁する時には、断定する言い方を避け、子どもたちが自分で考えられるような言葉掛けをしていることを、「保育日誌」で確認した。 ②複合施設の中での保育については、建物内に高齢者や障害者の施設があり、子どもたちがデイサービスに遊びに行き、交流していることを、「保育日誌」やホームページなどで確認した。 ③子どもを誉め、認める保育士の関わりについては、子どもが何かをできた時には、その場で誉めるようにしていること、保育士は「笑顔」や「きびきびとした動き」を心掛け、子どもたちに向き合っていることを、「保育日誌」や昼食の様子観察で確認した。</p> <p><分園> ①子どもの気持ちを受けとめる取り組みについては、子ども同士の物の取り合いや、おもちゃをひっくり返したりする行動だけで判断せず、子どもたちの思いを汲み取り、保育士が言葉で代弁するようにしていることを、「指導計画(月案)」で確認した。 ②自分をしっかり出せる取り組みについては、一人ひとりの良い所を見つけ、愛情を持って関わっていること、主張の強い子だけでなく、引っ込み思案の子にも留意して関わっていることを、「指導計画(月案)」で確認した。 ③個々の思いを受けとめる取り組みについては、保育士から答えを出さないようにして、子どもたちがどうしたらよいか自分で気付くように関わっていることを、「保育日誌」で確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもと社会とのかかわりにおいて、人に役立つことの喜びを感じたり、人と関わることの楽しさを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p><本園> ①意図的に子どもに手伝いをしてもらい、「ありがとう」の感謝の気持ちを伝えていく。 ②縦割り保育、年下の子どもとの自然な関わり、手伝いをする機会をつくったり、満足ができるようにする。 ③ニュースや時事的なことを、子どもに投げかけていく。</p> <p><分園> ①年下の子のお世話や手伝いをできる環境を作り、「ありがとう」と言われ、嬉しい気持ちを育む。 ②散歩での挨拶、関わりを大事にする。 ③地域交流(老人、子ども)や施設訪問を通して、地域の方との関わりをもつ。</p>	<p><本園> ①感謝の気持ちが伝えられるような取り組みについては、縦割り保育の中で意図的に手伝いの場面を設定していること、年長児が年少児の手伝いができるよう、保育士が子どもたちの間に入り声掛けをしていることを、「保育日誌」や保育室の様子観察で確認した。 ②縦割り保育の取り組みについては、年長児が年少児の手伝いを自然に行うことができるよう、保育士が関わっていることを、「保育日誌」や保育室の様子観察で確認した。 ③ニュースなどの投げかけについては、新聞の記事などを用いて、保育士が子どもたちに声掛けをしていることを、「月間保育計画」などで確認した。</p> <p><分園> ①お世話や手伝いの環境作りについては、縦割りの乳児保育の中で、上の子が下の子をあやしたり、オモチャを持ってきたりしていること、保育士のお手伝いをして人の役に立つ喜びを味わっていることを、「保育日誌」で確認した。 ②園外活動については、散歩は午前、午後を通して雨が降らない限り毎日実施していること、クラスにこだわらず一緒に出掛けていることを、「保育日誌」や「お散歩マップ」で確認した。 ③地域との交流については、毎週、地域の子育てサロンに出掛けていること、地域の高齢者施設も定期的に訪問していること、2ヶ月に1回、地域親子交流会を実施していることを、「保育日誌」で確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、言葉のやりとりを楽しめるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p><本園></p> <p>①絵本、紙芝居の読みきかせをする。 ②子どもの話す言葉をよく聞き、受け止める。子どもの伝えきれない気持ちを声に出し代弁する。 ③保育士が進んで遊びに入り、ごっこ遊び、伝承遊びを通して言葉のやりとりを楽しむ。</p> <p><分園></p> <p>①絵本、紙芝居、歌、手遊びを多く取り入れる。 ②話したい気持ちを大切にし、聞き流さないよう、よく聞く。 ③0歳からの温かい言葉かけを大切にする。</p>	<p><本園></p> <p>①絵本や紙芝居の読みきかせについては、絵本の言葉を真似たり、動作を真似たりして、心が育つように働きかけていることを、「保育日誌」や絵本・紙芝居が準備されていることで確認した。 ②言葉のやりとりを楽しむ取り組みについては、子どもが話す言葉を受けとめることでコミュニケーションを図っていること、子どもの言葉を代弁することで、少しずつ自分の気持ちを言えるように関わっていることを、「保育日誌」で確認した。 ③ごっこ遊びや伝承遊びでは、園児の言葉に対して、他の園児が反応するなど、言葉のやりとりを楽しんでいることを、「保育日誌」で確認した。</p> <p><分園></p> <p>①絵本、紙芝居、歌、手遊びなどでは、毎月、絵本の担当者がこぼと図書館から絵本を選んで保育室に置いていること、大きい子は隣の図書館から本を借りていること、こぼと図書館の本は家庭にも貸し出していることを、「保育日誌」で確認した。 ②話したい気持ちを大切にする関わりについては、子どもが話そうとする気持ちが湧くのを待つようにしていること、表情やアイコンタクトから気持ちを見逃さないようにしていることを、「指導計画(月案)」や「保育日誌」で確認した。 ③0歳からのあたたかい言葉かけについては、小さい頃からあたたかい言葉掛けを続けていること、あたたかい言葉掛けの積み重ねを大切にしていることを、「保育日誌」で確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、話すこと・聞くことが楽しめることや言葉の感覚が豊かになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p><本園></p> <p>①自分の話をきいてもらえる場、他児の話聞き場を作る。1対1でおしゃべりしたり、話をきく時をもつ。</p> <p>②散歩中に自然の音をきき、それを言葉にして伝え合う。</p> <p>③あやしや語りかけをし、心地よいと感じられるようにする。</p> <p><分園></p> <p>①子どもの思いを汲み取り、代弁する。</p> <p>②子どもの言葉を待ち、自分から話したくなる環境を作る。</p> <p>③絵本などを読み、共感する。</p>	<p><本園></p> <p>①話を聞く場の設定については、保育士が1対1で対応することにより、子どもたちが自分を大切にされていると感じられるように関わっていることを、「保育日誌」や保育室の様子観察で確認した。</p> <p>②散歩の取り組みでは、散歩の途中で、雲が動いている景色を見たり、川の水が流れる音を聞き、言葉に表せるように働きかけていることを、「保育日誌」で確認した。</p> <p>③あやしや語りかけの取り組みについては、保育士は言葉掛けだけでなく、スキンシップも大切にしていること、オムツ替えの場面では、スキンシップ以外にアイコンタクトを取るよう心掛けていることを、「保育日誌」や保育室の様子観察で確認した。</p> <p><分園></p> <p>①子どもの思いを代弁する関わりについては、子どものいろいろな行動に対して、子どもの思いを保育士が説明してフォローしていること、子どもに代わって保育士が言葉にしていることを、「保育日誌」で確認した。</p> <p>②自分から話したくなるような環境作りについては、自然の中を歩き、「こんな音がしたね」と保育士が働きかけ、子どもが自分から話したくなる環境を整えたりしていることを、「保育日誌」で確認した。</p> <p>③絵本などの取り組みについては、絵本を一緒に見ながら、動物を指してなき声を真似たり、絵本を見て同じことをやってみたいと言った時には、それに応えるようにしていることを、「保育日誌」で確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、楽しんで表現することができるようにすることや表現したい気持ちを育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p><本園> ①表現の場(言葉、リズム、絵画)の取り入れ、展示発表。 ②子ども自身の自由な発想を大切にする。「こうしなさい」と型にはめない。 ③子どものちょっとした発言、行動も大切に する。</p> <p><分園> ①安心して自由に表現できる環境を作る。 ②いろいろな体験ができる環境を用意し、やりたい気持ちを大切にする。 ③じっくり遊べるようにする。</p>	<p><本園> ①表現の場や展示発表については、太鼓やリングベル、タンバリン、カスタネットなどの楽器を用いていること、太鼓は4～5歳児が中心で、外部から指導者を招き保育士も一緒になって活動していることを、「保育日誌」や保育室の楽器で確認した。 ②子どもを型にはめない関わりについては、子どもたちの自由な発想を大切に、保育士は常に縦と横の関係を捉えて、子ども同士の関係が築けるように関わっていることを、「保育日誌」で確認した。 ③子どもの発言や行動を大切にする関わりについては、保育士が常に子どもの言葉や行動に気付くことを基本として関わっていることを、「保育日誌」で確認した。</p> <p><分園> ①自由に表現できる環境作りについては、おどろいたり笑ったり、感情を自由に出せるように配慮していること、リラックスして安心して表現できる雰囲気を作るようにしていることを、「職員会議録」で確認した。 ②いろいろな体験ができる環境作りについては、保育室に用意するおもちゃを年度の中で入れ替えていること、子どもたちの興味や様子を見てコーナーを作っていることを、「指導計画(月案)」や保育室の様子観察で確認した。 ③じっくり遊べるようにする取り組みについては、子どもが一人でもじっくり遊べる場所が確保できるよう配慮していることを、「指導計画(月案)」や保育室の様子観察で確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、自発的に表現する意欲を育むことやみんなで一緒に表現する喜びを味わえるようにすること、創造的に表現することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p><本園></p> <p>①皆で一緒に楽しいと思ったり、楽しそうな姿をみて、「やりたい」と思えるように、保育士も一緒になって楽しむ。</p> <p>②行事を通して、皆で一つのものをつくっていく。</p> <p>③自由保育(子どもの発想を認めていく)。</p> <p><分園></p> <p>①個々の興味を把握する。</p> <p>②探索、模倣、見立て遊びを充実する。</p> <p>③音楽あそび、ダンス、描画など表現する場をもつ。</p>	<p><本園></p> <p>①保育士も一緒になって楽しむ関わりについては、保育士が手本を示したり教えるのではなく、子どもたちと一緒に考えることができるように関わっていることを、「保育日誌」で確認した。</p> <p>②行事での取り組みについては、劇の役割なども保育士が決めないようにしていること、子どもたちが自分のやりたい役割を言えるようにしていること、子ども同士で決められるようにしていることを、「保育日誌」で確認した。</p> <p>③表現する場の設定については、子ども同士が刺激し合う環境を作っていること、お互いを認め合うような場面を作るように配慮していることを、「保育日誌」で確認した。</p> <p><分園></p> <p>①個々の興味を把握する関わりについては、子どもの発達段階を見て、今、何に興味があるのかを把握するようにしていること、興味に合わせて場面設定をしたり、おもちゃの種類を選んだり、遊びに興味を持ち集中できるようにしていることを、「保育日誌」で確認した。</p> <p>②探索、模倣、見立て遊びについては、ままごとや掃除の真似、保育士の真似など、子どもたちが自由に遊べるように配慮していることを、「保育日誌」で確認した。</p> <p>③表現の場作りについては、音楽遊びやダンス、楽器でジャンプなどを行っていること、子どもたちは音楽の CD がかかるのを楽しみに待っていることを、「保育日誌」で確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、聞く・見るなど感覚の働きを豊かにすることや身体を動かす楽しさを味わうこと、身近なものに対する興味や関心を引き出すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p><本園></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 戸外あそび、散歩で木、草花、空、鳥の声などをみたり、耳を澄ませる時をもつ。 ② 楽しい、おもしろいと体感できるように、一緒に関わり遊ぶ。 ③ 保育士が身近なものに興味をもち、伝え、じっくり物をみたり、きく機会をもつ。 <p><分園></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 五感が刺激される体験を大切にする。 ② じっくり観たり聴く機会をもつ。 ③ 一緒に体を動かして楽しむあそび、散歩を大切にする。 	<p><本園></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 園外活動については、周辺には緑が多く、梅林東屋では蟻を観察したり、梅の香りを楽しんでいること、港が丘公園にも散歩でよく出掛けていることを、「保育日誌」で確認した。 ② 保育士と一緒に関わり遊ぶ取り組みについては、保育士と一緒に関わり、楽しい、おもしろいと感じられるようにしていることを、「保育日誌」で確認した。 ③ 身近なものに興味をもてるような関わりについては、保育士自身が楽しんでいると子どもたちが集まってくること、子どもたちは保育士の様子をよく見ていて、保育士が身近なものに関心や興味を持つ姿勢が大切であることを、「保育日誌」で確認した。 <p><分園></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 五感が刺激される体験については、自然の音を聞き、何だろうねと子どもに問いかけたりしていること、子どもたちが疑問に思ったこと、不思議に思ったことを保育士も一緒になって共有していることを、「保育日誌」で確認した。 ② じっくり観たり聴く機会への取り組みについては、散歩先で何かを見つけた時にはすぐに帰らず、子どもが納得するまで観察できるようにしていることを、「保育日誌」で確認した。 ③ 一緒に体を動かして楽しむ遊びや散歩については、散歩先の逸見山などで、体を十分に動かして楽しめるようにしていることを、「保育日誌」で確認した。

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、身近な様々なものに対する探索意欲を満足させることや社会や自然の事象や、動植物への興味や関心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p><本園> ①小動物の飼育、そして自然に触れられるような環境の設定を心掛ける。 ②本棚に図鑑や写真付き絵本をそろえてある。 ③散歩、山歩き、遠足。</p> <p><分園> ①動植物を育てる。 ②自由に探索できる散歩、自然に触れる散歩を大切にする。 ③じっくり関わる時間、ひとりあそびの時間を大切にする。</p>	<p><本園> ①小動物の飼育や自然との触れ合いについては、オタマジャクシから育てていたカエルが死んでしまった時に、子どもたちの心に残る関わりをしていることを、「保育日誌」や園内のインコや小動物の飼育の状況で確認した。 ②図鑑や写真付きの絵本については、図鑑や写真付き絵本がいつでも手に取ることができるように本棚に揃えてあることを、「保育日誌」や本棚の内容で確認した。 ③散歩、山歩き、遠足については、その日の天気を見て、保育士の判断で散歩を頻繁に行っていることを、「保育日誌」で確認した。</p> <p><分園> ①動植物の飼育や栽培については、園内でオタマジャクシを育てたり、インコを飼育していること、植物や野菜はプランターを活用して栽培していることを、「保育日誌」や「職員会議録」、インコの飼育の状況で確認した。 ②散歩の取り組みについては、散歩は午前、午後を通して、雨が降らない限り毎日実施していること、クラスにこだわらずに一緒に出掛けたりしていることを、「保育日誌」で確認した。 ③じっくり関わる時間、ひとりあそびの時間を大切にする取り組みについては、考える力やこうしてみようとする意欲を育てていること、ひとり遊びで自分の世界を作ること大事にしていることを、「指導計画(月案)」で確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>自分から食べようとする意欲を育んだり、排泄をしようとする意欲を育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p><本園></p> <p>①尿、便がでた際にはきれいに拭き取り、気持ちよさを感じさせる。</p> <p>②小皿を利用し、手づかみ食べを見守りながら、スプーンの使い方などを伝えていく。</p> <p>③体をよく動かし、お腹をすかせ、楽しい雰囲気です。</p> <p><分園></p> <p>①個に合わせた適切な関わりをする。</p> <p>②絵本、紙芝居を活用して、興味を育む。</p> <p>③意欲を受けとめる。</p>	<p><本園></p> <p>①排尿、排便の対応については、下痢の時には温水シャワーを使用していること、オムツかぶれがある場合は、オムツをすぐにあてずに乾かすなど配慮していることを、聴き取りや園内のトイレの様子で確認した。</p> <p>②食事の支援については、保育士が手を取り、スプーンに慣れることから始めていることを、「保育日誌」や昼食時の様子観察で確認した。</p> <p>③楽しい雰囲気での食事の取り組みについては、どのクラスも楽しく食事ができることを基本としていることを、「保育日誌」や昼食時の様子観察で確認した。</p> <p><分園></p> <p>①個に合わせた関わりについては、子どもたちのその日の様子を見て、食べようとする意欲を育むようにしていることを、「保育日誌」で確認した。</p> <p>②絵本や紙芝居の活用については、食事に提供する野菜や果物と同じものを絵本で見せ、食べる意欲につなげていること、排泄への取り組みも絵本や紙芝居を活用して、トイレに行こうとする意欲を引き出していることを、「指導計画(月案)」で確認した。</p> <p>③意欲を受けとめる取り組みについては、保育士から、やってごらんとは促さず、子どもたちが自発的に行おうとするのを待ち、意欲が出た時をキャッチして励ますようにしていることを、「保育日誌」で確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>身の回りのことを自分でしようとする意欲を育むことや基本的な生活習慣を身につけること、食事や休息の大切さを理解することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p><本園> ①大人が何でも先にやっってしまうとしない。「自分でやりたい」という気持ちを大切にし、できた時は一緒に喜ぶ。 ②安心して入眠できるように、一人ひとりの生活リズム、体調を配慮し関わる。 ③毎日の繰り返しを大切にする。</p> <p><分園> ①自分でやりたい気持ちを大切にする。 ②家庭との連携を大切にする。 ③ゆっくり関わり、できた喜びを共有する。</p>	<p><本園> ①自分でやりたい気持ちを大切にすることについては、待つことによって子ども自身ができる場面があるので、本人のやりたい気持ちを大切にするように対応していることを、「打合せノート」で確認した。 ②午睡の取り組みについては、午睡に向けて、一人ひとりのその日のリズムを整えるようにしていることを、「保育経過記録」や訪問調査時の午睡の様子観察で確認した。 ③毎日の繰り返しを大切にすることについては、月ごとに目標を設定し、目標に向けて毎日取り組み、場合によっては次月も同じ目標を掲げていること、じっくり取り組むことによって、子どもたちの成長の様子を把握できるようにしていることを、「乳幼児保育経過記録」で確認した。</p> <p><分園> ①自分でやりたい気持ちを大切にすることについては、着替えや靴を自分ではこうとする時には、保育士が見守って、じっくりと行えるように配慮していることを、「指導計画(月案)」で確認した。 ②家庭との連携については、連絡帳を活用し、排泄や食事について、家庭と連携を取っていること、家庭より園が先に取り組まないようにしていること、保護者の思いを尊重するとともに、親の責任も意識してもらうように関わっていることを、「児童票」で確認した。 ③ゆっくり関わり、できた喜びを共有することについては、言葉掛けのほか、保育士がうなずいたり、アイコンタクトで応えるようにしていることを、「保育日誌」で確認した。</p>

大項目3 保育園の特徴

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもの豊かな心と身体をはぐむための特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p><本園> ①外遊びを中心に行い、体を動かし、五感を育てる。 ②散歩に多く出、自然に触れる機会を多くし、地域の人との交わり、子どもの発見を大切にする。 ③縦割り保育であるため、思いやりの生活をしている。</p> <p><分園> ①キリスト教精神での家庭的な保育を行う。 ②豊かな心と体を育むため、縦割り保育を行う。 ③地域や自然との関わりを大切にする。</p>	<p><本園> ①外遊びの取り組みについては、外遊びでは裸足になって遊び、給食室からの食べ物のおいことや、散歩での鳥の鳴き声を聞き、きれいな音を聞くためには雑音もあることがわかるように働きかけていることを、「保育日誌」や園庭で遊ぶ子どもたちの様子観察で確認した。 ②散歩への取り組みについては、園の近くは緑が豊かで、蟻や桑の実、野いちごを観察したり、ドングリを探したりしていることを、「保育日誌」で確認した。 ③縦割り保育の取り組みについては、保育士が声掛けする前に、上の子が下の子の手伝いをする場面が多く見られること、下の子も保育士から言われるよりも、上の子から言われたことをきちんと聞かなければいけないと思っていることを、「保育日誌」で確認した。</p> <p><分園> ①家庭的な保育の取り組みについては、家庭のようにあたたかく見守られている雰囲気を作るように努めていることを、「保育日誌」で確認した。 ②縦割り保育の取り組みについては、上の子は下の子を思いやり、下の子は上の子を見て刺激を受けていることを、訪問調査当日の保育室の様子観察で確認した。 ③地域や自然との関わりについては、善隣園はよく歩く、よく歩こうを大事にしていることを、「保育日誌」や「指導計画(月案)」で確認した。</p>

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>保育環境に特別な配慮を必要とする子ども(長時間保育、障害児保育、乳児保育、外国籍園児)の保育に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p><本園></p> <ul style="list-style-type: none"> ①全職員が子どもについて(対象の)知り、関わる。 ②他機関との連携、スーパーバイザーとの連携。 ③保育者同士の連携と個別理解。 <p><分園></p> <ul style="list-style-type: none"> ①個々のリズムや静かな時間を保障し、少人数での保育を行う。 ②担当職員を中心に愛着、信頼関係を築く。 ③英会話のできる職員を中心に、家庭とのコミュニケーションをとる。 	<p><本園></p> <ul style="list-style-type: none"> ①全職員での関わりについては、配慮を必要とする子どもの保育について職員で話し合いを行っていること、年1度のクラス替えは子ども同士の関係性に配慮し、職員間で話し合って決めていることを、「打合せノート」で確認した。 ②他機関やスーパーバイザーとの連携については、市の療育相談センターと連携していること、巡回指導を依頼したことをきっかけにして、専門職にスーパーバイザーとして関わってもらっていること、保育士の個別の相談にも対応してもらっていることを、「打合せノート」や「スーパーバイザーとの話し合いのテーマ」で確認した。 ③保育士同士の連携と個別理解については、子どもを個々に捉え、一人ひとりの持ち味を保育士全員が理解し保育していくことを大切にしていることを、「打合せノート」で確認した。 <p><分園></p> <ul style="list-style-type: none"> ①②少人数での保育の取り組みや愛着、信頼関係を築く取り組みについては、長時間保育ではおやつ時間も遅くして、メニューにも気を配っていること、1対1でのきめ細かい保育を心掛けていることを、「保育日誌」や「献立表」で確認した。 ③家庭とのコミュニケーションでは、外国人の保護者もいるため、その日の出来事を伝える時には、ボディランゲージなども使いながら情報が伝わるように配慮していることを、「クリスマス講演会、英語版プログラム」や訪問調査当日の外国人保護者とのやり取りの様子観察で確認した。

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>健康管理に特別な配慮を必要とする子ども(アレルギー疾患をもつ園児、乳児保育、病後時保育など)の保育に関する特徴的な取り組み(アレルギー食対応、個別食、離乳食など)について説明してください</p>	<p><本園> ①アレルギーのある子は診断書を提出していただき、給食と連携、除去食を提供している。 ②離乳食は、準備、初期、中期、後期になっている。 ③噛むことの大切さ。</p> <p><分園> ①家庭、職員、給食スタッフと連携を取り、アレルギー食、個別食、離乳食に対応している。</p>	<p><本園> ①アレルギーのある子への対応については、調理指示書で禁止食の内容を委託調理業者に伝え、代替食を提供していることを、「アレルギー児除去食一覧表」や「調理指示書」で確認した。 ②離乳食の取り組みについては、離乳食も委託調理業者に依頼していることを、「離乳食の進め方の目安」や写真で確認した。 ③噛むことの大切さを知らせる取り組みでは、やわらかい食物は避けて、できるだけ煮干やスルメなど噛むことに繋がる給食を提供できるように工夫していること、以前より継続して取り組んでいることを、「乳児保育経過記録」で確認した。</p> <p><分園> ①家庭や職員、給食スタッフとの連携については、アレルギー食の対象となる子どもが2名いること、トレイに名前を貼って間違いのないようにしていること、離乳食は家庭と一緒に進めていることを、「保育日誌」で確認した。</p>
<p>食に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p><本園> ①給食委員会があり、業者(ニチダン)と話し合い、要望をだしたりし、改善している。 ②お弁当の日。 ③魚料理、手作りおやつ、旬のものを意識的にとり入れる。</p> <p><分園> ①意欲的に食べたいと思える環境をつくる。 ②するめやにぼしなど、噛むことを大切にしている。 ③手作りおやつを提供する。</p>	<p><本園> ①給食委員会での話し合いについては、委託業者の栄養士などが参加して、給食委員会を開催していること、話し合いの結果として冷凍食品を使わなくなったことを、「給食について」や「給食打合せ会」で確認した。 ②お弁当の日の取り組みについては、お弁当の日を月1回実施していること、年度始めの説明で保護者に準備をお願いしていること、保護者が子どもに関心を向けてほしいことを目的として実施していることを、「保育日誌」や「9月予定表」で確認した。 ③手作りおやつなどの取り組みについては、調査実施月の10月にも、手作りおやつを15回提供していることを、「10月予定表」や「10月喫食状況表」で確認した。</p> <p><分園> ①意欲的に食べたいと思える環境作りについては、楽しく食事に向えるように歌をうたったり、お腹がすくように遊びや運動を十分に行うようにしていることを、「保育日誌」で確認した。 ②噛むことの大切さを知らせる取り組みについては、献立の中に煮干やスルメなど、噛んで食べるものを意識的に入れるようにしていることを、「献立表」で確認した。 ③手作りおやつの取り組みについては、おやつはできるだけ手作りのものを提供していることを、「献立表」で確認した。</p>

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>家庭とのコミュニケーションに関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p><本園></p> <p>①お茶の日の開催。 ②保護者会、よくする委員会、ありんこの発行。 ③担当だけでなく、皆で個々の家庭に声をかけ、それぞれ知った情報を交換し、その家庭を知り、支援する。</p> <p><分園></p> <p>①指導はしない。豊かな関係を作る。 ②日常の会話・連絡帳等で、家庭、職員間で情報を共有する。 ③行事などを通し、家庭同士のつながりを作る手助けをする。</p>	<p><本園></p> <p>①お茶の日については、月に2回、16時30分から18時45分の時間で園が主催し実施していること、お茶と絵本をロビーに準備していることを、「9月予定表(乳児)」で確認した。 ②保護者会やよくする会については、園の協力団体として保護者会があること、また父親の自主的なグループとして「よくする会」があること、「ありんこ」は年3～4回発行され、保護者に情報を発信していることを、「善隣園保育センター保護者会規約」や「保護者会記録ノート」で確認した。 ③家庭の情報については、保育士が受け止めた保護者の情報は、職員室内の掲示板を使って内容を共有していることを、職員室内の掲示板の内容で確認した。</p> <p><分園></p> <p>①家庭との関係作りについては、家庭と一緒に子育てを行い、子どもの成長を喜び合う関係作りをしていること、家庭の思いを言えるような雰囲気作りをしていることを、「児童票」で確認した。 ②家庭との情報の共有については、連絡帳で日々のやり取りを密に行い、保護者には、保育参観や保育参加の中で、「一日先生」をお願いし、園での様子を見てもらい、情報を共有するようにしていることを、「児童票」で確認した。 ③家庭同士のつながりを作る援助については、保護者交流育成係を置き、園と保護者が一緒に子育てを行い、保護者同士のつながり作りを行えるようにしていることを、「児童票」で確認した。</p>

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>地域の子育て支援に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p><本園> ①開放保育、出張保育、育児教室などの開催。 ②CCS、地域の子どもの実態を把握。 ③地域の人と積極的に挨拶し、子育てについて話をしている。</p> <p><分園> ①園での交流会をもつ。 ②地区社協と連携した親子広場を開催する。 ③地域の子育てサロンの訪問と散歩先での交流をもつ。</p>	<p><本園> ①開放保育、出張保育、育児教室などの開催については、出張保育は園独自の事業で、公園に出掛け屋外で実施していること、開放保育も園独自の事業として実施していること、育児教室は年2回開催していることを、「田浦地区子どもカレンダー」や「田浦地区子育てマップ」、「出張保育ノート」などで確認した。 ②CCS(乳幼児・学童コミュニティ・ケア研究会)や地域の子どもの実態把握については、法人内の地域福祉のスタッフと一緒に実施していること、学童保育担当職員も参加していることを、「研究会会議記録」で確認した。 ③地域の子育て支援については、子育て相談を随時実施していること、育児教室は2コース開催し、講師を招き実施していることを、「育児教室」などで確認した。</p> <p><分園> ①地域との交流会については、地域のお年寄りとの交流会を実施していること、ボランティアセンターからのボランティアの受け入れを行うなど、地域との交流を実施していることを、「保育日誌」で確認した。 ②親子広場の開催については、逸見地区社協と園との共催で、地域の公民館を使用して、親子広場を開催していることを、「保育日誌」で確認した。 ③地域の子育てサロンの訪問については、地域の子育てサロンと日常的に交流を行っていることを、「保育日誌」で確認した。</p>